

富山県におけるプロスポーツと総合型地域スポーツクラブに関する一考察

発表者：伊東 悠太郎

指導教官：横山 義昭

I. はじめに

富山県では、2005年にbjリーグ・富山グラウジーズ、2006年にBCリーグ・富山サンダーバーズ、2008年にJFL・カタレ富山がプロスポーツチームとして発足している。しかし、地域密着度や安定財源を示す指標である観客動員数は、3チームともに1試合5,000人を下回っており、地域に根付いているとは言えず、球団経営は決して良好ではないと考える。また、総合型地域スポーツクラブも全15市町村で56団体が立ち上がっており、活動は活発である。しかし、県民に浸透しているとは言えないため、更なる会員数増加や新規事業の必要性がある。

本研究では、プロスポーツと総合型地域スポーツクラブが強みやメリットを高め合い、弱みやデメリットを補い合える接点を見つけ、どのような連携が図れるかを検討する。その結果から、富山県のスポーツ界発展の為の一助とすることを目的とする。

II. 研究方法

1. 聞き取り調査

- 1) 富山県教育委員会スポーツ・保健課生涯スポーツ係（以下、県教委）
- 2) 富山県広域スポーツセンター（以下、広域SC）
- 3) 株式会社富山サンダーバーズベースボールクラブ（以下、サンダーバーズ）
- 4) 特定非営利活動法人富山スポーツコミュニケーションズ（以下、TSC）

2. アンケート調査

- 1) 総合型地域スポーツクラブ担当者 29団体（回収率63.0%）
- 2) 総合型地域スポーツクラブ参加者 112名（回収率70.0%）
- 3) プロスポーツ観戦者 115名（回収率79.9%）

III. 結果及び考察

1. 聞き取り調査

1) 県教委

県教委は、プロスポーツと総合型地域スポーツクラブの連携が実際に進んだ場合には、支援をしていく考えがある。

2) 広域SC

広域SCは、プロスポーツと総合型地域スポーツクラブの連携を図っていくべきであると考えている。また、総合型地域スポーツクラブが県民に浸透しているとは感じていない。

3) サンダーバーズ

サンダーバーズは、プロスポーツと総合型地域スポーツクラブの連携を図っていくべきであると考えており、実際に連携を進めている。更に連携を進め、充実させていくために、プロスポーツを頂点、総合型地域スポーツクラブを底辺として、その中に企業・社会人スポーツや中学校、高校、大学の部活動、スポーツ少年団等を取り込んだ上での、富山県オリジナルのスポーツコミュニティ構想が必要であると考えている。

4) TSC

TSCは、プロスポーツと総合型地域スポーツクラブの連携を図っていくべきであると考えている。また、連携を行うにあたって、その中心的な役割を担う考えがある。

2. アンケート調査

1) 総合型地域スポーツクラブ担当者

- (1) 0.1%水準で有意に富山サンダーバーズ、カタレ富山、富山グラウジーズを認知している。
- (2) 0.1%水準で有意に「する」、「見る」、「支える」スポーツの充実がスポーツライフの向上に寄与すると考えている。

2) 総合型地域スポーツクラブ参加者

- (1) 参加者は、1%水準で富山サンダーバーズを、0.1%水準でカターレ富山、富山グラウジーズのプロスポーツチームを有意に認知している。
- (2) 参加者は、1%水準で有意に「見る」スポーツを行っている。
- (3) 参加者は、0.1%水準で有意に「支える」スポーツを行っていない。
- (4) 参加者は、総合型地域スポーツクラブでのプログラムの一つとして、プロスポーツ観戦を行いたいと考えている傾向である。

3) プロスポーツ観戦者

- (1) プロスポーツ観戦者は、総合型地域スポーツクラブを認知しておらず、加入していない傾向である。
- (2) プロスポーツ観戦者は、「する」、「支える」スポーツを行っている傾向である。
- (3) 「する」、「支える」スポーツを行っていないプロスポーツ観戦者は、「する」、「支える」スポーツを行いたいと考えている傾向である。
- (4) プロスポーツ観戦者は、0.1%水準で有意に「する」、「見る」、「支える」スポーツの充実がスポーツライフの向上に寄与すると考えている。

IV. まとめ

プロスポーツと総合型地域スポーツクラブは、連携を図ることが必要であると考えられる。具体的には、プロスポーツを頂点、総合型地域スポーツクラブを底辺とし、その中に企業・社会人スポーツや部活動等を取り込んで富山県オリジナルのピラミッド型の構造を作ることが有効であると考えられる。プロスポーツチームは、各スポーツ団体の目標や憧れとなり、

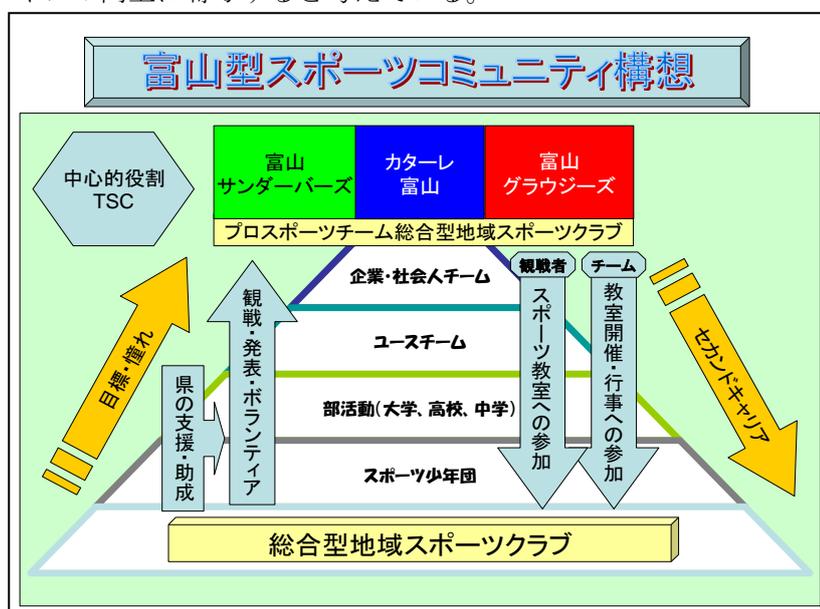


図1. 富山型スポーツコミュニティ構想

各スポーツ団体は、プロスポーツ選手のセカンドキャリアの受け皿となる。総合型地域スポーツクラブは、市町村毎、あるいは広域圏毎にネットワークを作り、そのネットワーク単位でプロスポーツ観戦やプロスポーツボランティアスタッフ活動を行う。プロスポーツチームは、総合型地域スポーツクラブでのスポーツ教室で指導を定期的に行い、イベント行事にも参加する。また、連携を行う際には、現在の運営状況を踏まえて、TSCに広域SCの機能を移譲した上で、中心的な役割を担うことが望ましいと考える。

このプロスポーツと総合型地域スポーツクラブの連携が進むことは、生涯スポーツの振興につながり、ひいては、富山県のスポーツ界の更なる発展につながると考える。

V. 中間発表の課題

中間発表では、『「する」スポーツを中心に考えるべき』との意見を頂いた。しかし、スポーツには多様な関わり方があり、「する」スポーツは、「見る」、「支える」スポーツと対等な概念であると考えられる。本研究の目的は、スポーツ実施率を高めることではなく、プロスポーツと総合型地域スポーツクラブの連携によって、「する」、「見る」、「支える」スポーツを相互に推進させ、富山県のスポーツ界の発展の為の一助とすることである。よって、「する」スポーツを中心に考えることはせず、論文作成を行った。